

帝京大学ちば総合医療センター

年間分娩件数 260件 うち帝王切開70件

年間婦人科手術数 550件 (腹腔鏡手術200件、開腹手術200件 (含帝王切開)
腔式その他150件)

指導責任医師 教授 梁 善光

医師数 10名

日本産科婦人科学会専門医5名、日本生殖医学会生殖医療専門医3名、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医2名、日本産科婦人科内視鏡学会認定技術認定医2名、日本内視鏡外科学会認定技術認定医(産婦人科)2名、日本臨床細胞学会細胞診専門医1名、日本性感染症学会性感染症専門医1名、日本がん治療認定機構認定医2名

病院の特徴

内房地区の産婦人科医療を支えています。

「日本産科婦人科学会専門研修施設」に加えて「日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設」、「日本婦人科腫瘍学会認定修練施設」および「日本生殖医学会認定研修施設」となっています。このため、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医および産婦人科内視鏡学会技術認定医も取得可能です。

地域周産母子センタークラスの病院として市原医療圏の産婦人科でのほぼすべての婦人科救急を受けており、さらに千葉大学と連携して千葉・市原医療圏での妊娠34週以降の産科2、5次救急まで(3次救急は千葉大学)を担当しています。ICUも充実しており、救急医療も研修できます。

研修の特徴

何より千葉県内では数少ない腹腔鏡下子宮体がん手術の施設基準をクリアした病院であり、またTLHの施行例は県内トップレベルです。ブラックボックスで自分で練習する努力は必要ですが、その技量に応じて執刀もできます。また、婦人科腫瘍の新規症例は年間80-90例あり十分な症例を経験できます。もちろん婦人科腫瘍修練施設ですので、その経験は今後につながります。開腹手術も相当数ありますので、基本的な子宮・付属器切除も勉強できます。周産期に関しては、ほとんどが何らかの合併症を有する妊婦さんですので、分娩数は少ないもののその修練内容は充実したものを提供できると思います。生殖内分泌に関しては、子宮内膜症分野では日本最先端の治療を行っています。残念ながら現在のところ人工授精以外のARTは行っていませんがconventionalな不妊治療も充実しています。